JICAボランティア隊員 現地からの声

今回は、ミクロネシア／チューク州で
栄養士として活動中のシニア海外ボランティア隊員
石﨑 訓子さん（富山県出身）

任国の人達は明るく親切でおおらかです。
地元の食材利用や野菜の摂取量を増やすために週に2回の料理講習と、州立病院での糖尿病外来患者のカウンセリングが今の私の主な活動となっています。
料理講習では家で採れた野菜を持参する参加者がいたり、NCD※スタッフが講師となったりで和気あいあいとしています。NCDチームの一員として迎えてもらい、メンバーの温かい愛情を感じることのできる日々の中で、希望を持って活動できることに幸せを感じています。
美味しい果物と美しい海がさらにさらに、幸せにしてくれています。
顔も腕もチューク色になってきました。地域の人でチューク語しか話せない人と日本語しか得意でない私との会話が成り立っているから不思議です。皆さんの笑顔が私の元気の源です。
この笑顔がずっと続くように地域の人々の健康維持に役立つ活動をしていきたいと思っています。

※NCD (Non-communicable disease)は、WHOの定義によると、不健康な食事や運動不足、喫煙、過度の飲酒などの原因で、生活習慣の改善により予防可能な疾患を「非感染性疾患（NCD)」と位置付けている。

パラグアイ共和国へ日系研修フォローアップ協力調査団を派遣!!

2016年2月26日から3月9日までJICA北陸、石川県立看護大学、羽咋市社会福祉協議会、中日新聞北陸本社からの一行8名がパラグアイを訪問しました。
日本でデイケアや介護予防に関する研修を受け、パラグアイに帰国した研修員のその後の現地での活動状況や現状課題を確認するためにパラグアイ国内の日系移住地を訪問し、帰国研修員をはじめ、福祉ボランティアや日本人会の方々と意見交換を行いました。
同時に、本研修の実施団体である石川県立看護大学、羽咋市社会福祉協議会の講師の方々による認知症の理解と予防に関する講義や実技のワークショップを開催しました。各移住地では、パラグアイに来ているとは思えないくらい日本食でのおもてなしをうけました。また、日系人のお宅にホームステイをさせていただく機会もあり、帰国研修員をはじめ、福祉ボランティアや日本人会の方々との親睦をさらに深めることができました。
今回の調査で、今後の研修がさらに効果的なものになることを期待しています。

開催報告 中小企業海外展開支援セミナー ～インドの開発とビジネス展開の可能性～

JICA北陸では2016年7月にインドへ企業調査団を派遣します。その前に「人」も「市場」も熱いインドを知ってもらうセミナーをJICAインド事務所の坂本所長を招き、開催しました。
経済成長や人口増予測からみる投資メリットに期待がある一方、インフラや人材育成などの課題もあり、官民が連携して、インドの持続的発展に貢献しながらビジネス展開を図ることが重要となっています。
今回はジェトロの協力を得て、現地日系企業の声から、進出を検討する上での様々なヒントもいただき、参加者から「役に立った」との評価をいただきました！
インドのさらなる「今」については、次号、「JICA北陸民間連携事業インド調査団」の報告でお伝えします！乞うご期待！

坂本JICAインド事務所長による説明

セミナーの様子

vol.2

地域への貢献シリーズ

JICAボランティアOB 千田 崇裕さんへのインタビュー

福井県下飲食店を経営する

派遣期間：2009年9月～2011年9月　派遣国：ドミニカ国　職種：料理

千田さんのお店　**肴や千**（さかなやせん）
福井県福井市順化1丁目10-9 ドリームタウンビル1F
TEL 0776-28-0320

Q1 ボランティア隊員としてどのような活動をしていましたか?

カリブ海のドミニカ国で料理隊員として、活動していました。成人教育局と水産局に所属し、魚食普及や地方での料理教室などで現地職員と週に1～2巡回指導していました。

料理教室の風景

Q2 協力隊時代の経験は、現在の飲食店経営にどう生かされていますか?

『何事もやってみなければ分かりません』初めてのお客様でも、いろいろお話してみなければ分かりません。とにかく経験してみるということです。
ドミニカで料理をする際には、材料、水道、そして電気の制限があって、とても不自由な環境でした。
日本に帰国し、ドミニカに比べると制限なく自由に料理ができるという便利な環境や、『季節に関係なく食材が手に入る』ということが当たり前になっているので、感謝する気持ちを大切にし、料理をするようにしています。

ドミニカにて

Q3 千田さんはどのように地域と関わっていますか?（お店以外の、料理というジャンルにおいて）

継続的な関わり合いは難しいですが、先日、地元の桜の名所で開催される『時代行列・桜祭り』で「楽しいことをしよう！」と企画している人たちと日本食の屋台を出店しました。
僕が担当したのはもちろん料理メニューの考案ですが、他にも音楽ステージをしたり、舞台を作ったりと有意義な経験をしました。今後も第2回・3回と続けていき、このような関わりが地域の活性化に繋がればと思います。

大学生国際協力フィールド・スタディ・プログラムに参加して

富山大学3年　**長澤 祐佳**さん

チナイモ浄水場
ビエンチャン上水道拡張事業

NGOのプロジェクト対象の村

春休みにJICAの大学生国際協力フィールド・スタディ・プログラムでラオスを訪れました。
このプログラムは、途上国の国際協力の現場でフィールド調査をし、グローバルな視点と問題発見・解決能力を身につけることを目的としています。私の班は保健医療をテーマとし、予防接種について農村で調査しました。実際に現地を訪れ、自分の目で見ることを通し、日頃、文字や統計だけで自分がどれほど「わかったつもり」になっていたのかを知りました。
また、国際協力というものは、プラスを増やしマイナスを減らす活動を、地道に続けていくことが重要であると実感しました。この経験をこれからの学びにつなげていきたいです。

JICA大学生国際協力フィールド・スタディ・プログラムとは
大学生が途上国の国際協力の現場でフィールド調査演習を行うことを通して、グローバルな視点と問題発見・解決能力を身に付けることを支援するプログラムです。

ラオスでのフィールドスタディに参加した学生たち